

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援／放課後等デイサービス Olinace公津の杜		
○保護者評価実施期間	2024年 11月 5日 2025年 1月 27日 ～ 2024年 11月 30日 2025年 2月15日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26名 31名	(回答者数) 19名 21名
○従業者評価実施期間	2025年 1月 27日 ～ 2025年 2月 8日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	脳科学理論をもとにした運動療育	・「動」と「静」のセットでメリハリを意識 「動」と「静」の組み合わせで脳と体が成長し集中力を身に付けます。脳と体は相互関係にあります。体を動かすと脳（前頭前野）が活性化し、集中するために必要な脳の領域が元気になります。「動」と「静」の活動を交互に繰り返すことにより、興奮を瞬時に抑制する力が高まります。動と静のメリハリで、より強い抑制力を育てるため、結果的に集中する力が身に付きやすくなります。 ・数分ごとにあそびを変えて脳を刺激する 脳の様々な力を切り替えながら行うことで、楽しく能力を育てることができ ます。また、子どもも飽きずに続けられるため、集中力も鍛えられます。 ・ストーリーやイメージと運動がセットになっている ハイハイをするだけでも「犬さんみたいに歩こう」など、イメージさせて体 を動かすことで想像力を鍛えます。	定期的な運動研修の実施やアレンジした運動プログラムの共有
2	1日の中で自由遊びの時間と、運動療育の時間を分けて、子供が主導権を握れる時間が自由遊びの時間、運動療育の時間は船影が主導権を握って療育を行い、メリハリをつけている。	運動療育のプログラム内容をその日利用している子供に合 わせて行うようにしている。	今後もプログラムの内容は気付けばできるようになるように スモールステップで行っていく。
3	ニュータウンという立地で学校や保育園、幼稚園の数も多いので、利用者も様々な学校の子供と交流ができ、友だちもできる。	下校時間が重なってしまう事があるので、お迎え時間の調整を 行っている。	違う学校同士、子供たち、親同士の交流できる環境を設けて いく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会などの交流の機会がない	保護者が参加できるイベントを企画したり、保護者同士で情報 の共有が出来る場として設けられるような企画ができていない。	保護者にアンケートを取り、保護者会で行って欲しい生の声 を聴き、それをもとに企画を検討していく。
2	保育所や認定こども園、幼稚園、放課後児童クラブ、児童館との交流、地域の中での他の子どもとの交流がない	近く交流できる施設があるが、企画し、交流する機会に至ら なかった。	広報やフリーペーパーなどの情報からイベント情報を集めて 入手し、地域の子供との交流の機会を作っていく。
3			